

## 第2学年国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時  
学 級：第2学年〇組〇名  
場 所：2年〇組教室  
授業者：〇〇 〇〇

### 1 単元名 「なりきりペープサートをしよう！～そうぞうしたことを生かして読もう～」 （「お手紙」 光村図書一下／「がまくんとかえるくんシリーズ」）

#### 2 単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 [知識及び技能] (1)ク
- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
- 楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

#### 3 単元について

##### (1) 児童の実態

本学級には、初めての文章でもすらすらと読める児童もいれば、粒読みにになってしまう児童もおり、個人差がとても大きい。また、声に出すことがとても苦手で、小さな声になってしまう児童も見られる。そのため、どの単元においても、導入までに繰り返し本文を音読できるようにして、少しでも文章を読むことに慣れたり、自信をもって学習を始められたりするようにしてきた。また、語彙が少ない児童も一定数おり、意味が分からないままに音読をしていることが多かった。そこで、文章の中で初めて出てくる言葉を動作化をしたり、具体物を示してイメージがもてるようにしてきた。そのことで、語のまとまりを意識して読めるようになっていたり、読み方の工夫が見られるようになった。

児童はこれまでの単元において、お気に入りのところを見つけようという経験をしてきている。また、普段から読み聞かせをする機会を設け、お気に入りのところを児童に尋ねることも繰り返し行ってきた。そうすることで、ほとんどの児童が物語の全文の中から場面の様子に着目し、自分なりの根拠をもって1番のお気に入りの決められるようになってきた。

また、第1学年の「くじらぐも」「スイミー」の単元では、「音読発表会」の言語活動を通して登場人物の気持ちを想像することをねらいとして学習を仕組んだ。「くじらぐも」では、挿絵、会話文、地の文と順を追って吹き出しを貼っていき、想像したことを吹き出しに書く活動を取り入れてきた。「スイミー」では、その経験を生かし、全文の中から自由に吹き出しを貼り、想像したことを付箋に書いてきた。しかしながら、想像したことを付箋に書き込むことはできたが、そのことが直接読み方に生かされるような授業展開ができなかった。書くときは書くだけ、読むときは読むだけ、というように指導者が分けて考えてしまっていたために、吹き出しに書いて想像したことが音読に生かされにくかった。

以上のことから、「お手紙」の単元では、想像したことを声に出して音読し、想像したことを確かめたり、自分が理解したことを表現することを交互に繰り返すことで、[知識及び技能] (1)クの「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる」と[思考力、判断力、表現力等] C(1)エの「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる」の資質・能力を一体的に育むことができるような単元を構想していきたい。

##### (2) 教材について

本教材「お手紙」は、1学期に学習した「スイミー」に続く、2年生では3つ目の文学的な文章である。今まで一度もお手紙をもらったことがなく、悲しい気持ちでいるがまくんを見て、かえるくんがお手紙を書き、がまくんもかえるくんも幸せな気持ちになるという物語である。文章の中心は、がまくんとかえるくんのやりとりであり、二人の会話の中から気持ちを想像することがしやすい教材である。また、場面によってがまくんとかえるくんの気持ちも変化しており、その変化を捉え、音読や動きで表現することに適していると考えられる。

本単元では、「お手紙」の他にも、アーノルド・ローベルさんの「がまくんとかえるくんシリーズ」の短編集を教材として扱う。シリーズの本は、どれも短編集で読みやすく、がまくんとかえるくんのほんわかとした日常が描かれているものばかりである。いろいろなお話に触れ、お手紙で身に付けた力を並行読書材で活用することで、確かな力としたい。

### (3) 指導について

<p>第1学年及び第2学年</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1)言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1)エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>「学びに向かう力、人間性等」</p> <p>言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書し、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p>
--

以上の指導事項を重点的に指導する。

本単元では、登場人物の行動を具体的に想像する力を身に付けられるようにしていくために、『なりきりペープサートをしよう！』をゴールに設定した。体育学習発表会でお世話になった6年生に頑張っている姿を見てもらおうという相手意識を大切に、ペープサートを発表する。発表では、自分のお気に入りの本（がまくんとかえるくんシリーズ）の好きなところを選び、ペープサートで発表する。同じ本を選んだ友達とグループを作り、屋台形式で発表をしていく。時間の許す限り、何度でも発表を繰り返すことで、学んできたことを発揮する機会を十分に設けていきたい。

また、自分の言葉で話すのが苦手な児童がいる実態があることから、ペープサートを介することで、別の人物になりきって音読ができるような手立てとする。

ペープサートを行うために、学習を大きく4つの段階に分けて指導していく。一つ目に、好きなところを選んで音読を繰り返す学習をする。これまでの学習では、児童が本文を何度も声に出して確かめる活動が十分にもっていなかった。そのため、「これでいいのかな」「こう読もう」という思いを児童がたくさん貯めていけるような機会が少なかった。今回は、絶えず声に出して音読を繰り返していくことで、登場人物が何をしたのかという内容を確認することができるようにしていきたい。二つ目に、音読に合わせてペープサートを動かす学習を取り入れる。そうすることで、登場人物の位置や動きなどをより具体的に想像できるようにしたい。三つ目に、本文に付け足す一言を考える。がまくんとかえるくんがどんなことを話しているのか、どんな気持ちなのかをペープサートを動かしながら考えていくことで、話し方の口調や様子が分かってきたり、なりきって音読をしたりすることにつなげていきたい。四つ目に、タブレットを活用して、自分のペープサートの姿を動画に撮り、見られるようにする。6年生にペープサートを見てもらうというゴールに向けて、自分が読みたいと思った読み方ができているかどうか、確かめたり、より高めたりしていける時間を設けたい。

### (4) 児童(生徒)が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

<p>【「読み解く力」の二つの側面】</p> <p>A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>【「読み解く力」の三つのプロセス】</p> <p>①…発見・蓄積：必要な情報を確認に取り出す</p> <p>②…分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する</p> <p>③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
--	--

#### ア タブレットの活用 【A1】 【A2】 【A3】 【B2】

児童がゴールイメージを具体的にもって学習活動に取り組めるように、導入では教師があらかじめゴールモデルをビデオに録画しておき、児童に提示する。具体的な姿でゴールを示すことで、共通理解を図り、児童の中で目指す姿がはっきりとイメージできるようにしていきたい。また、学習の途中でいつでもその動画が見られるように、一人ひとりの児童のタブレットに動画を入れておき、児童が適宜活用できるようにしていきたい。

また、毎時間学習の終わりには自分の音読をタブレットで録画するようにする。そうすることで、自分の音読の変化や学びを児童自身が実感できるようにする。さらに、全員の音読の姿を教師も確認ができるため、評価にも生かしていけるようにしたい。

#### イ ペープサートを行い、付け足しの一言を考える 【A1】 【A2】 【A3】 【B1】 【B2】 【B3】

児童がより想像を広げて読めるように、ペープサートを行い、付け足しの一言を考える。ペープサートを、文章に即して動かすことで、誰が、どうして、どうなったのかについて読みを確かめたり、具体的に想像したりする手立てとする。また、そのときの登場人物の行動や気持ちを具体的に想像するために、付け足しの一言を考える。付け足しの一言を具体的に想像することで、嬉しい気持ち、悲

しい気持ちといった想像にとどまることなく、児童が豊かに想像する手立てとする。

ウ 想像したことを添えて音読して表現することを繰り返す【A1】【A2】【A3】

想像したことを吹き出しに書いて終わるのではなく、想像したことを添えて音読して表現したり、理解したことを表現したりすることを繰り返すことで、より想像を広げられるようにする。そのため、ペープサートを動かしながら音読をしたり、音読をした後に吹き出しを書いたりするなど、[思考力、判断力、表現力]と[知識及び技能]の資質・能力を一体的に育むことができるような学習活動を設定する。

エ 自力解決とペア交流の行き来で学びを深める【B1】【B2】【B3】

本単元では、自力解決の時間とペア学習の時間を繰り返しながら学べるようにしていく。その際、こちらが時間を区切って設けていくのではなく、児童が自分自身で「自分でじっくり考えたい」「友達に聞いてほしい」という気持ちを基に、自分がしたい学習の仕方が選べるようにしていく。

オ 教科書教材と並行読書をつなぐ単元構想【A1】【A2】【A3】

『お手紙』の学習で身に付けたことを、確かな学びとするために、並行読書を行う。アーノルド・ローベルさんの本の中からお気に入りの話を選び、「6年生に向けてペープサートを行う」というゴールに向かって学習を進めていく。その際、「お手紙」での学習経験がすぐに生きるように、「お手紙」で学ぶ時間と並行読書で学ぶ時間を交互に設けていく。そうすることで、「お手紙」で身に付けた力をすぐに並行読書の本の学習で活用できると考える。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 ((1)ク)	「読むこと」において、場面の様子に着目して登場人物の行動や会話について具体的に想像している。 (C(1)エ)	積極的に、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かしてペープサートで表現しようとしている。

5 指導と評価の計画（全11時間）

※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点・ICTの活用	評価規準・評価方法
0		○朝学習の時間などに絵本の読み聞かせをする。		
一	1	○単元のゴールや目的を理解し、学習の見通しをもつ。 ○教師の読み聞かせを聞き、物語の展開をつかむ。	・6年生にペープサートをするという単元のゴールと付けたい力を共有する。 ・教師が作成したペープサートモデルを動画（がまくんとかえるくんシリーズ）で提示し、ゴールイメージをもてるようにする。 ・挿絵をもとにあらすじを確認できるようにする。	
二	2	○『お手紙』の中からペープサートにしたい大好きなところを見つけて音読する。	・ <u>大好きなところは厳密な範囲指定はせず、「この辺が好きだな」という大まかなものでよいとする。</u> ・ <u>自分でペアを見つけて交流ができるように、全文掲示にそれぞれの児童の大好きなところが分かるように名前の付箋を貼る。</u>	[知・技] 観察 ・『お手紙』の中からペープサートにしたい大好きなところを見つけ音読している様子。
	3	○並行読書の本から紹介したい話を選び、大好きなところを見つけて音読する。	・ <u>大好きなところは厳密な範囲指定はせず、「この辺が好きだな」という大まかなものでよいとする。</u> ・自分でペアを見つけて交流ができる	[知・技] 観察 ・並行読書のお話の中からペープサートに

		<p>ように、<u>並行読書マトリックス</u>を使用し、<u>掲示する。</u></p>	<p>したい大好きなところを見つける様子。</p>
4	<p>○『お手紙』の大好きなところをペープサートを動かしながら音読する。</p>	<p>・本文を音読しながらペープサートを動かすことで、<u>文章から離れた想像にならないように支援する。</u></p>	<p>[思考・判断・表現] 観察 ・想像したことを生かしてペープサートを動かしながら音読している様子。</p>
5	<p>○並行読書のお話の大好きなところをペープサートを動かしながら音読する。</p>	<p>・本文を音読しながらペープサートを動かすことで、<u>文章から離れた想像にならないように支援する。</u></p>	<p>[思考・判断・表現] 観察 ・想像したことを生かしてペープサートを動かしながら音読している様子。</p>
6	<p>○『お手紙』の大好きなところについて、ペープサートを使いながら想像を広げて読み、付け足しの一言を考える。</p>	<p>・付け足しの言葉を添えて何度も音読し、「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら書き出すように伝える。 ・隣の人に聞こえるくらいの明確な発声を意識できるようにする。 ・<u>自分で考えることとペアと交流することを繰り返す中で、想像を広げていけるようにする。</u> ・吹き出し型の付箋に書くことが難しい児童は、友達と交流する中でヒントになったことを音読し、最後に付け足しの一言が付箋に書けたらよいとする。 ・特に大好きなところを一つに絞ることで、<u>自分の思いを明確にできるようにする。</u></p>	<p>[思考・判断・表現] 吹き出し ・吹き出しの内容。</p>
7 本時	<p>○並行読書のお話の大好きなところについて、ペープサートを使いながら想像を広げて読み、付け足しの一言を考える。</p>	<p>・付け足しの言葉を添えて何度も音読し、「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら書き出すように伝える。 ・隣の人に聞こえるくらいの明確な発声を意識できるようにする。 ・<u>自分で考えることとペアと交流することを繰り返す中で、想像を広げていけるようにする。</u> ・吹き出し型の付箋に書くことが難しい児童は、友達と交流する中でヒントになったことを音読し、最後に付け足しの一言が付箋に書けたらよいとする。 ・特に大好きなところを一つに絞ることで、<u>自分の思いを明確にできるようにする。</u></p>	<p>[思考・判断・表現] 吹き出し ・吹き出しの内容。</p>
8	<p>○『お手紙』でペープサートを使って音読している姿をタブレットで撮影し、自分の音読の仕方を確かめたり、工夫したりする。</p>	<p>・自分の動画を見て、ペープサートの様子を確かめる。 ・<u>動画を見てペアと交流することで、さらに想像を広げたり、工夫したりできるようにする。</u></p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 観察 ・動画を見て、さらに工夫して音読している姿。</p>
9	<p>○並行読書でペープサートを使って音読している姿をタブレッ</p>	<p>・自分の動画を見て、ペープサートの様子を確かめる。 ・<u>動画を見てペアと交流することで、さ</u></p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 観察</p>

	トで撮影し、自分の音読の仕方を確かめたり、工夫したりする。	らに想像を広げたり、工夫したりできるようにする。	・動画を見て、さらに工夫して音読している姿。
10	○『お手紙』で『なりきりペープサート』をする。	・学級みんなに向けて、ペープサートを行う。 ・並行読書のときと同じように、屋台形式の場を設定にして行う。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察 音読している様子。
11	○並行読書のお話で『なりきりペープサート』をする。	・同じ本を選んだ児童でブースを作り、屋台形式で発表をする。 ・時間内に同じ児童が何度でも発表してよいこととし、発表を繰り返す中で学習してきたことを出し切れるようにする。 ・6年生には、あらかじめこれまでの学習での頑張ってきたことや発表のめあてを伝え、そのことについて感想を言ってもらえるようにする。 ・単元を通しての振り返りを行い、それぞれの児童が学びを実感できるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察 今までの学習を生かして音読している様子。

### 6 本時の目標 (本時：7/11時間目)

場面の様子に着目して、「がまくん」や「かえるくん」の行動や会話について具体的に想像して読み、付け足しの一言を考えている。

### 7 本時の評価規準

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話について具体的に想像している。

[思考・判断・表現] C(1)エ

### 8 本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

	主な学習活動等	指導上の留意点(・) ICTの活用(☆) 評価規準(□)
3分	1. 本時のめあてをもつ。	・6年生に向けてペープサートをするというゴールを再度確認し、ゴールに向けてペープサートをよりよいものにしたいという気持ちが膨らむようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>大すきなところをもっといっぱいそうぞうして読んで、付け足しの一言を考えよう。</p> </div>		
4分	2. 前時を振り返り、付け足しの一言を考えるためのポイントを確認する。	・前時の学びを思い出し、今日の学習に生かせるようにする。 〔ポイントの例〕 ・お気に入りの本文を指さして言葉を確認しながら音読する。 ・友達と好きなのところと一緒に読んでからお話する。 ・本文に続けて、付け足しの一言を言う。 ☆前時の活動の様子をICTを使って確認する。
20分	3. ペープサートを使いながら、何度も音読し、付け足しの一言を考え、付箋に書く。  ①好きなのところを声に出して読む。 ②ペープサートを動かしながら、会話を口頭で付け足してみる。(1回だけでなく何度も。隣の人に聞こえる声	・付け足しの言葉を添えて何度も音読し、「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら付箋に記入するということを確認する。それを踏まえて、いくつも書いて貼っていてもよいし、難しい児童は、友だちと交流する中でヒントになったことを音読し、付け足しの一言が付箋に書けたらよいことを伝える。 ・自分で考えることとペアで交流することを繰り返す中で、想像を広げていけるようにする。

	<p>で)</p> <p>③同じ話を選んでいる子と並行読書マトリクスを見てペアを組む。</p> <p>④何度も相手を変えながらペアで練習してみる。</p> <p>⑤「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら、自席に戻って、もう一度付け足しの言葉を話してから、吹き出しカードに書く。</p> <p>⑥ペア学習の合間に、一人で言葉を考えて、練習してみたくなったら、自席で①、②を繰り返し、自信がいたら③以降に戻る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自らが交流したい相手を見つけていけるように、誰がどの話を読んでいるかがすぐに分かる表（並行読書マトリクス）を掲示しておく。</li> <li>☆ゴールイメージや学習活動のイメージが具体的に分かるように、タブレットの中に見本となる動画を入れ、いつでも見られるようにしておく。</li> <li>・机間指導を行い、学習に困り感をもっている児童を見つけたら、個別の支援を行い、その後の学習が改善されるようにする。</li> </ul> <p>[予想される困り感]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな風に付け足しの一言を考えればよいかわからない。</li> </ul> <p>→教師の見本のビデオを見るように促す。</p> <p>→付け足しの一言を考えられた子どもとつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付け足しの一言が本文から離れすぎている。</li> </ul> <p>→本文を読んでから付け足しの一言を考えることを確認する。</p>
3分	4. 想像した付け足しの一言の中から、とっておきの一言を決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き出し型の付箋は想像したことを整理していくための手立てであるため、その枚数によって子ども達に優劣がつかないように、最終的に付け足しの一言として、付箋は1枚に絞って貼るようにする。</li> <li>・とっておきの一言を決めることで、自分の思いを明確にできるようにする。</li> </ul> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像して吹き出しに書いている。</p> <p>(思判表C(1)エ)</p>
5分	5. 付け足しの一言を加えて、好きなところのペープサートを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人かの子どもが発表できるようにし、今日の学びを確認したり、最後に録音する際にお手本となるころはないか考えながら聞けるようにする。</li> </ul>
7分	6. ペープサートを使って音読している姿をタブレットで録画する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学びの成果として、ペープサートを使って音読している姿を残せるようにする。</li> <li>・それぞれの児童が自分のタブレットで録画できるようにする。</li> </ul>
3分	7. 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りのワークシートを用意する。</li> <li>・今日の学習内容を踏まえて、次回どんなことをしたいかについて書けるようにする。</li> </ul> <p>[期待する児童の振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つけ足しの一言が考えられたから、もっとなりきってペープサートができるようになりたいです。</li> <li>・つけ足しの一言を入れてうまく言えなかったから、もっと上手になれるようにれんしゅうしたいです。</li> <li>・6年生に上手と言ってもらえるように、何回もれんしゅうしたいです。</li> </ul>